

生産者・流通・消費者を結びつける

携帯電話による生産履歴とトレーサビリティ

農作物に対する消費者の安心と信頼を確保するには、農産物の産地、栽培方法、流通経路などを明らかにする「トレーサビリティ」の確立が必要とされています。そのために、農産物の生産や流通における情報を確実に記録・伝達し、その情報を消費者に提供するシステムを開発しました。

■ 携帯電話を利用して生産履歴を記録

生産者は、インターネット対応の携帯電話を使って現場にいながら簡単に作業内容や使用した農薬・肥料などの記録を入力できます。そのデータはインターネットを通して生産履歴データベースに保存されます。農産物を収穫した後、それまで記録した生産履歴情報を IC タグの識別番号(ID)に関連付けした上で、その IC タグを農産物の箱や包装に付けて出荷します。

■ IC タグを利用して流通履歴を記録

流通経路である集荷場、市場、店舗などでは、農産物に付けられた IC タグ(電子荷札)を読み取って、その ID と時刻を流通履歴データベースに記録します。これにより、届いた品物の確認のほか、入荷や出荷などの記録をすばやく行うことができます。

■ インターネットで農産物の情報を提供

消費者は、店舗で農産物を購入する時に、それらに付いている IC タグやバーコード(QRコード)を、それぞれ店頭表示端末あるいは携帯電話で読み取ります。これにより、農産物ごとに記録された生産履歴や流通履歴などの情報を、インターネットを通してその場で確認することができます。

IC タグを利用した流通履歴記録システム



携帯電話を利用した生産履歴記録システム

消費者向けの農産物情報提供システム

お問い合わせ先

独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構 中央農業総合研究センター 農業情報研究部 モデル開発チーム
菅原幸治 (e-mail: sugak@affrc.go.jp URL: http://riss.narc.affrc.go.jp/diary/)